

令和5年8月30日教材研究会
令和5年10月2日授業研究会

入野小学校では、先生方が一丸となり、チームとして授業者を支えながら教材研究や指導案作成、模擬授業を行ってきました。また、協議では的確な意見が多く出され、参会の先生方にとってもご自身の授業改善につながる研究会になりました。

授業者
竹吉 紀龍 教諭

単元を描く

8/30 教材研究会を受けて変更した点

大塚調査官のご指導、協議での意見をもとに、単元の目標と言語活動を変更し、単元を見直すことができました。

単元の目標

学びに向かう力、人間性等
言葉が持つよさを感じ取るとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする

Before 知識及び技能
事柄の順序の関係について理解することができる【(2)ア】

After 知識及び技能
読書に親しみ、いろいろな本があることを知る【(3)エ】

Before 思考力、判断力、表現力等
文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる【読むことウ】

After 思考力、判断力、表現力等
文章の中の重要な語や文を選び出すことができるようにするという展開を考えました。

言語活動

Before 動物の巣作りのひみつを紹介しよう

After ビーバーのひみつを紹介しよう

文部科学省初等中等教育局 大塚 健太郎 教科調査官

指導・助言 本単元について

- 本教材を使って、設定した言語活動を通して、資質・能力を身に付けた子供の姿を具体的にイメージしておかないと、学習展開を考えることは難しい。
- 教科書教材「ビーバーの大工事」には、「始めに・次に」といった順序を表す言葉があまりないため、事柄の順序（知識及び技能）を捉えることは難しいのではないかと。
- 別の読み物を使ってひみつを見付ける活動を設定しているが、教科書教材を丁寧に読むことで、十分力を付けることができるのではないかと。

講話 国語科の授業について

こんな授業に出合っていませんか?

- 子供たちの意見や生活からかけ離れた学習課題
- ワークシートに計画を細かく明示されている
- 毎時間形式だけの振り返り
- 一人→ペアで→グループ→クラス全体 (子供たちの思考と関係なくいつもこのパターン)
- 「はい、お隣さんと会話して確認しましょう。」は対話?
- 発達段階や学習指導要領に合わない難しい学習、複雑な学習、高度な学習

学習指導要領の全面実施から4年目。「こんな授業に出合っていませんか?」というお話がありました。これらの活動がダメなわけではなく、本当に、資質・能力の育成につながるかを考えることが大切だということです。いつものパターンとして形式的に授業を行ったり、子供たちが失敗しないように手立てを考え過ぎたり、子供の実態に合わない指導をしたりしていないのかを考え直すことが必要です。

本時を描く

10/2 授業研究会

本時(6時間目/全8時間)のねらい

第⑩～⑮段落を読んで、ビーバーがダムをつくる様子に関する言葉や文を選び出すことができる。

家庭学習で、線を引いてきた「すごい」と思うところをもとに、それらを以下のように整理しながら、大事な文として確かなものにしていきました。

- ◆「工事の手順(すること)」
- ◆「ビーバーの体の機能(体)」
- ◆「時間や体制(いつ? だれと?)」

視点①: 児童が主体的に学べるような導入ができていたか。

T: ビーバーは、どのくらい大きなダムをつくられますか?
C: 高さ2メートル、長さ450メートルと書いています。
T: それってどれくらいの大きさだろうね?

ビーバーの体長と比較し、ダムの高さは先生の背よりも高く、長さは「直線距離で学校から役場まで」もあることを示すと、子供たちからは、「えー!!」「うわー!!」と驚きの声の連続でした。さらに、「どうやってつくっているんだろう?」という子供も。小さなビーバーが巨大なダムをつくるというズレに出合わせることで、子供の問いからめあてが設定されていました。

視点②: 児童は文章の中の重要な語や文を考えて選び出せていたか。

授業者の竹吉先生は、「始めの子供たちの意欲を持続させることが難しかった。」と振り返っていましたが、まずは子供の意見を受けとめ、「本当にそれでよいのかな?」と問い返したり、「もう一度教科書を読んでみよう」と、文章に戻って考えさせたり、目標に向かった指導の工夫がたくさん見られました。課題解決に向けて、言葉にこだわりながら思考するためには、子供が働かせる見方・考え方を教師が明確にしておき、それを引き出すための発問を考えておくことが大切です。

①前時の学びを手がかりに、選んだ文を「すること」と「体」で整理していきました。

②始めは、この二つも ビーバーが「すること」だと言っていた子供たちでしたが、「していることではない」と気づき始めました。
T: ①～⑤のことを一回やったらダムは完成する? どうやっているの?
C: 家族総出で。だって2mもあるがで!
C: 夕方から夜まで。
T: じゃあ、こういうこと?
と板書で確認しました。

③この三つは、ダムのことなので、ビーバーのことではないと区別していました。

言葉

対象 どうやってダムを作るのか(ひみつ)

言葉 小枝を積み上げる

言葉 夕方から夜まで 家族総出

前時にも働かせた見方・考え方
新たに働かせる見方・考え方

T: なぜ「夕方から夜まで家族総出で仕事を続ける」が「ひみつ」と言えるの?
C: 「いつ、だれとするか」ということから、「どうやってダムをつくるのか」に合っていると思います。

このように、子供が選んだ文に対して、なぜ重要な語や文と言えるのかを問い返すことが見方・考え方を引き出すことにつながります。